

第2章 竹原市の景観特性

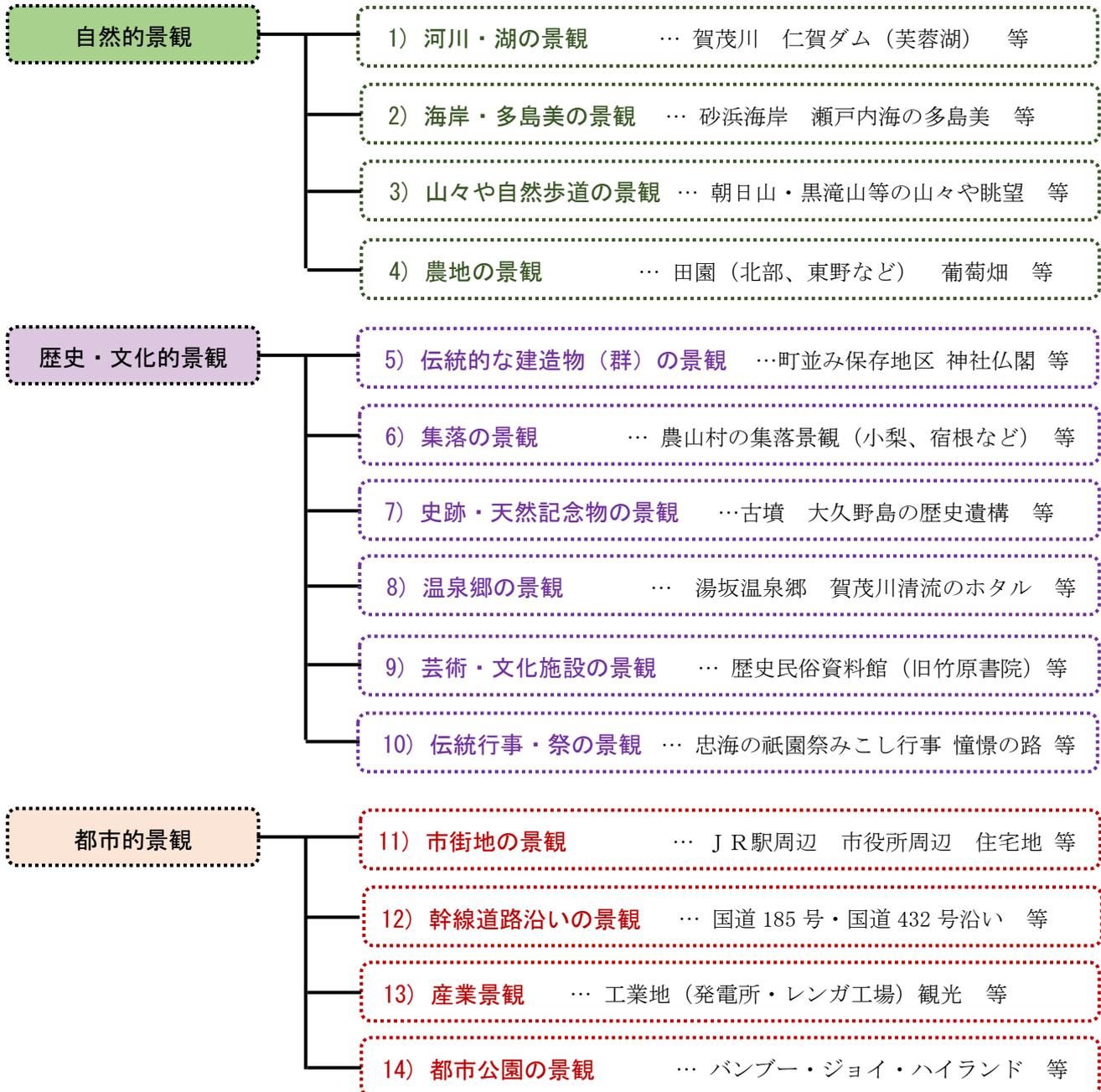
1 景観を構成する要素

本市の景観は大別して、「自然的景観」「歴史・文化的景観」「都市的景観」の3種類に分類されます。

自然的景観は、瀬戸内海や朝日山・黒滝山等の山々、賀茂川や仁賀ダム（芙蓉湖）等の河川・湖など、海から山にかけての多様な自然資源から形成されます。

歴史・文化的景観は、町並み保存地区に代表される伝統的な建造物群や史跡・天然記念物、忠海の祇園祭みこし行事や神明さん等の伝統行事・祭など、地域の歴史・文化的資源から形成されます。

都市的景観は、商店街や住宅地等の市街地、国道185号や432号等の幹線道路沿道、発電所やレンガ工場等の工業地など、計画的あるいは人工的に形成された都市空間から形成されます。



2 景観の形状

景観の形状は大きく分けて、「面的景観」「線的景観」「点的景観」の3種類に分類されます。

面的景観は、地形や土地の利用形態によって、一定のまとまりを持って形成される景観です。本市では、市街地を取り囲む山々や瀬戸内海、田園風景等が該当します。

線的景観は、道路や河川、海岸線など、線的なつながりをもって形成される景観です。本市のシンボルとなっている国道432号・県道竹原港線の沿道や賀茂川、瀬戸内海の海岸線等が該当します。

点的景観は、地区の景観を特徴づける歴史的建造物やランドマークとなる施設、祭りイベント等のスポット的に形成されている景観です。本市では西方寺普明閣をはじめとした社寺や宿根の大桜、神明さん等が該当します。

面的景観



線的景観



点的景観



3 自然的景観の特性

本市は瀬戸内海と緑の山々に囲まれた自然的景観が豊かなまちです。市のランドマークとなっている朝日山や黒滝山は、市街地の背景としての山並み景観を形成する一方、山頂から市街地や瀬戸内海を一望できる市内有数の眺望スポットとなっています。また、本市は竹がシンボルになっており、市内の各地で竹林を目にすることができます。特に小吹地区の竹林は地域住民をはじめ、多くの人の心に残る代表的な景観となっています。

沿岸部には、瀬戸内海国立公園や自然海浜保全地区があり、ハチの干潟や砂浜などの自然海岸の景観、大久野島や阿波島などの多島美の景観が形成され、海岸線を走る国道185号やJR呉線、忠海長浜のエデンの海パーキングエリアからは瀬戸内海の多島美や海に沈む夕日を眺めることができます。とくに、ハチの干潟は1774年に完成した賀茂川瀬替え後に堆積したデルタで、干潮時には泥地・砂地・岩場が露出し、潮干狩りやゴカイ堀、磯遊びなどで親しまれてきました。近年では、アサリなどの減少により、利用者は激減しましたが、豊かな自然が残されており、希少な生物（サナダムシ、ナメクジウオ、ハクセンシオマネキ、スナガニ等）も多々存在していることから、世界の研究者の間でも注目されています。

市北部では、春先の水を張った水田や秋の黄金色の稲穂がのどかな田園風景を形成し、市南部では、賀茂川下流の葡萄畑と吉名町の特徴的な赤土のじゃがいも畑が広がり、市全域で様々な農地の景観を見ることができます。

市の中央を流れる賀茂川やその源流にある仁賀ダム（芙蓉湖）では、桜並木やホタル等を楽しめる良好な親水空間が形成されているとともに、山間部では自然歩道等が整備され、豊かな自然と触れ合える市民に安らぎと潤いをあたえる場所になっています。



東野町の田園風景



仁賀ダム（芙蓉湖）



賀茂川沿いの自然景観



ハチの干潟の夜明け



ハチの干潟



黒滝山山頂から見る忠海市街地と多島美



4 歴史・文化的景観の特性

本市には、江戸時代に製塩業をはじめとした生業により発展した町並み保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）や海運の要衝として繁栄した忠海市街地があり、歴史ある家屋や神社仏閣が美しい歴史・文化的景観を形成しています。

町並み保存地区では、本瓦葺き・漆喰塗籠^{しっくいぬりごめ}・多様な格子の意匠の優れた屋敷や数多くの文化財、文化施設が軒を連ね、町並みと調和した黒レンガ舗装や側溝の美装化等が行われているとともに、市木である竹を活用した細工や家の前に飾られた花々が風情とおもてなしを感じる、歩きたくなる町並みが形成されています。また、地区の西側を流れる本川には、港町当時の雁木と常夜灯が佇み、重厚な町並みとその背景をなす風致地区と一体となった美しい景観を作りだしています。本川は、1647年に完成した大新開の東側、賀茂川の一分流を絶縁して港として整備されました。広島藩の年貢の収納蔵として貢租米の積出の中心となり、1650年に塩田が開発されると、塩の積出港としても発展しました。1651年から水際線に平行な雁木が共有の船着き場と荷積場を兼ねた道路が整備され、近世的な河川港湾都市へと変貌しました。常夜灯には1825年（文政8年）の廻船業を営んでいた者の名が刻まれており、当時の港に係る商人からの信仰の厚さが窺えます。

忠海市街地では、切妻造りや虫籠窓^{むしこまど}を残した伝統的な町家と地区内に点在する神社仏閣が趣のある落ち着いた景観を形成し、また、市街地南側の海岸にある賀儀城跡（水軍城）、忠海港に残る船入堀や常夜灯と雁木が港町当時の面影を今も残しています。

また、大久野島の歴史遺構や北部地域の古墳群など、市内には現在も保全されている史跡・古墳があるとともに、忠海長浜の楠神社のクスノキといった天然記念物、農山村の集落風景や温泉郷の風景、賀茂川清流のホタルなど、今後も守り育てていくべき景観が数多くあります。

さらに、竹原住吉まつりや忠海の祇園祭みこし行事、福田のししまい、市内各所の神明祭（神明さん）など古くから受け継がれてきた伝統祭事も多く、近年ではたけはら憧憬の路や竹まつり、さくらフェスといった季節行事も行われ、人々の交流と季節が織りなす風物詩としての景観を創出しています。



たけはら町並み保存地区



忠海の古い町並みと祇園祭みこし行事



本川港の雁木と竹原住吉まつり



大久野島の歴史遺構



西方寺山門からの雪景色

5 都市的景観の特性

J R竹原駅前や竹原市役所周辺を中心市街地、国道 432 号などの幹線道路沿道には、市民の暮らしを支える拠点として、多くの店舗や事業所、公共施設等が立ち並ぶ都市空間が形成されています。

J R竹原駅前や幹線道路沿道は、電車や車などで本市を訪れる人々にとっては玄関口となることから、竹原らしい景観づくりが期待されており、歴史的なまちなみ景観に合わせた歩道整備や公園整備、町並み保存地区の格子をモチーフとした駅舎デザイン、国道 432 号の竹の街路樹整備、国道 185 号の無電柱化など、良好な景観形成への取組が行われています。

竹原の中心市街地周辺及び J R各駅周辺では、市民の生活の場となる住宅地としての落ち着いた景観が形成されており、総合公園バンブー・ジョイ・ハイランドや内堀公園などの都市公園では、市民の活動と憩いの場所として良好な都市環境を提供しています。

また、J R忠海駅前では、駅周辺の空き家を改修したりノベーションによるまちの再生や忠海港への歩道整備、内堀公園の活用、忠海港では大久野島への観光客のための店舗の整備等、おもてなしの景観づくりが進められています。

臨海部には、火力発電所をはじめとした工業地があり、ダイナミックな工場景観や工場夜景、特徴的な吉名のレンガ工場の景観を見ることができます。このうち、竹原製煉所の紅白の煙突は地域住民から「竹太郎」の愛称で親しまれ、遠くからでも眺めることができます。



J R竹原駅前商店街



内堀公園



J R呉線



竹原市街地と竹太郎（竹原製煉所の煙突）

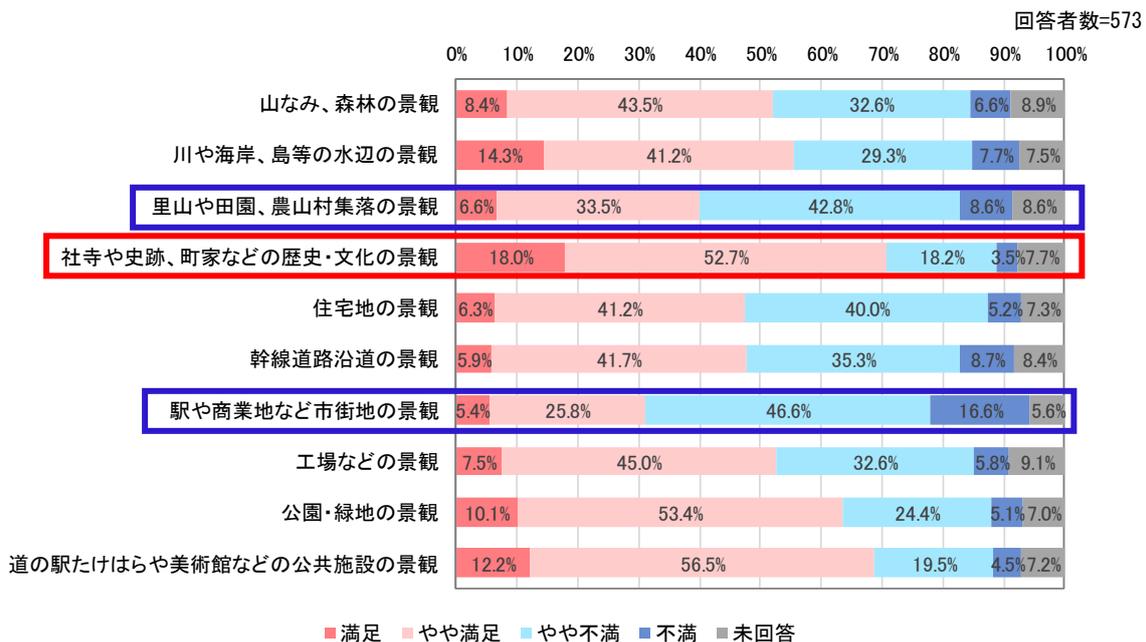
6 市民の考える竹原らしい景観

市民は本市の景観形成を主体的に進めていく担い手と言えます。そのため、市民の景観形成に対する意識を把握するために竹原市の景観に関するアンケートを実施しました。

(1) 景観に対する満足度

本市の景観に対する現在の満足度は、『満足』『やや満足』の合計が50%以上を占め、概ね満足度が高い傾向にあります。特に、『歴史・文化の景観』の満足度が高く、本市を代表する景観として維持・保全し、次の世代に引き継いでいく必要があります。

一方、『里山や田園、農山村集落の景観』や『駅や商業地など市街地の景観』は『不満』『やや不満』が50%以上を占め、集落景観や市街地景観の質の向上が求められています。



■ コラム 市民アンケート調査で選ばれたお気に入りの景観

竹原市のお気に入りの景観や未来の子どもたちに残したい景観に関する設問では、町並み保存地区をはじめとした「歴史的なまちなみ」が最も多く選ばれました。また、祭事等の風景といった人々の交流が生み出す形を持たない景観も多く選ばれています。



西方寺普明閣からの眺望



福田のししまい

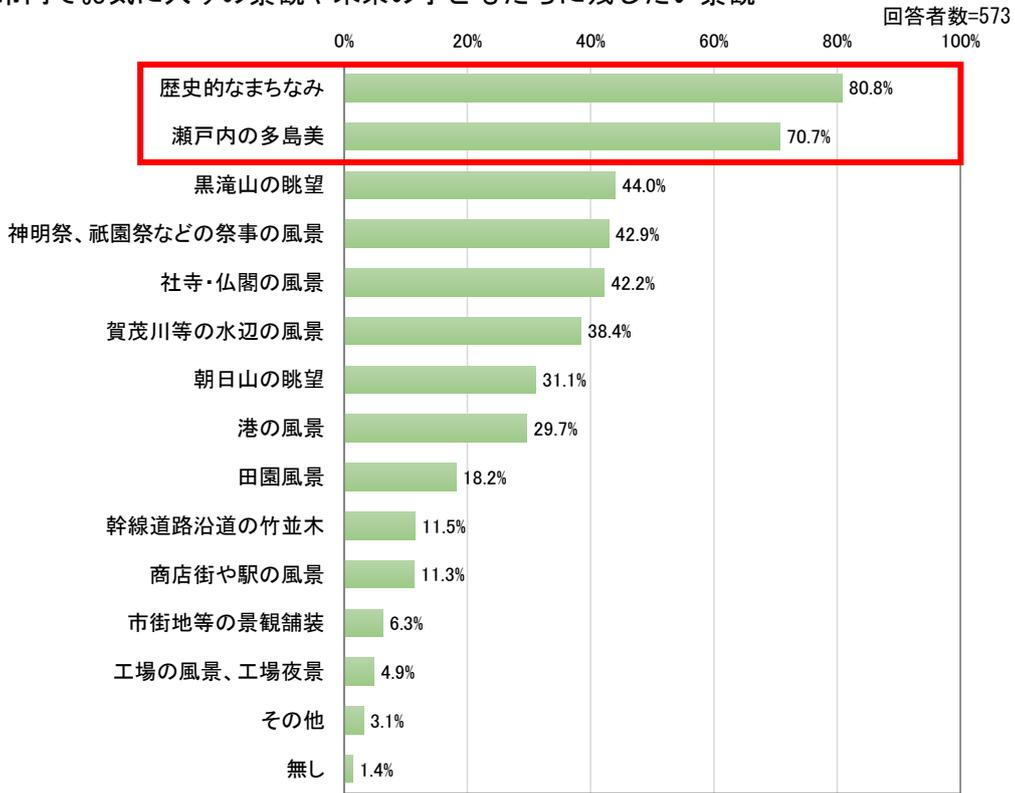


二窓の神明祭

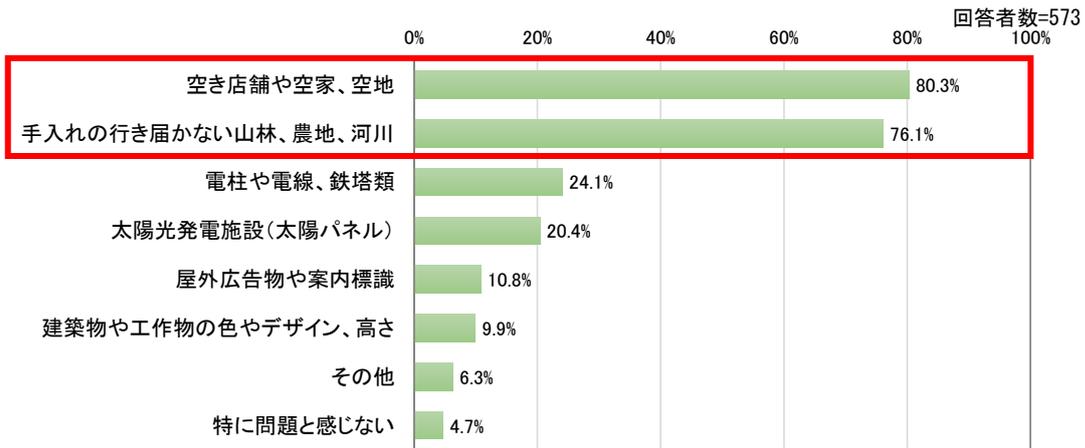
(2) お気に入りの景観と改善が求められる景観

お気に入りの景観については、『歴史的なまちなみ』や『瀬戸内の多島美』の自然的・伝統的な景観が多く集まっています。一方、良好な景観形成を損ねていると感じるものは、『空き店舗や空家、空地』、『手入れの行き届かない山林、農地、河川』といった、放置されている内容に関するものが増えており、適切な維持管理が求められています。

■ 竹原市内でお気に入りの景観や未来の子どもたちに残したい景観



■ 良好な景観形成を損ねていると感じるもの



7 景観形成に関する課題

良好な景観形成に向けて取り組むべき課題を“保全”、“創出”、“改善”、“仕組みづくり”の観点で抽出しました。

課題1 良好な景観の保全

- 朝日山や黒滝山は本市を代表するランドマーク、地域のシンボルとなっています。これらのランドマークを『見上げる眺望』やそこから『見下ろす眺望』を保全するため、それぞれの視点場の適切な維持管理や景観を阻害する建造物等の開発・建築を制限することが求められています。
- 大久野島をはじめとした瀬戸内海の多島美の景観は本市の重要な景観資源となっており、眺望点の保全・改善と島や海の景観保全が求められています。
- 本市を代表する景観のひとつである歴史的なまちなみは、先人たちより引き継いできたものであり、後世に残す重要な財産であるため、適切な維持管理により保存し続ける必要があります。
- 憧憬の路や神明祭など、市内各地で開催される伝統行事・祭りは本市を特徴づける景観ですが、近年の少子高齢化等により、行事の維持が困難になっています。これらの行事・祭りを守るために、地域住民だけでなく周辺地域とも連携することが重要です。

課題2 地域資源の価値を高める

- J R 駅前や幹線道路沿道の景観は本市の玄関口として人々が目にすることから、玄関口にふさわしい魅力ある景観づくりが求められています。
- 本市には市内外から評価の高い自然・歴史・都市的景観があり、これらの魅力的な景観は重要な観光資源にもなっているため、市内外への魅力の発信が求められています。
- 竹原駅前商店街等は J R 竹原駅と町並み保存地区をつなぐルートになっており、連続した賑わい景観を形成し、市民や観光客が歩きたくなるような景観まちづくりが求められています。

課題3 景観阻害要素の改善

- 歴史的なまちなみを有する地区や主要道路沿道に周囲と調和しない色彩やデザインを持つ建造物や広告物が立地している場所があります。これらの建造物や広告物に対する適切なルールづくりが求められています。
- 主要道路沿道の耕作放棄地や海岸沿いなどに太陽光パネル等が設置されています。低未利用地を有効に活用できる一方で景観に悪影響を与えている場所もあるため、太陽光パネル等の設置には周辺景観との調和が求められています。
- 放置されている空き店舗や空き家、空き地が増加しており、良好な景観形成を阻害しています。これらの阻害要素を解消することが重要です。

課題4 景観形成に向けた仕組みづくり

- 良好な景観形成を進めるためには、行政の取組だけでなく市民一人ひとりの意識向上や活動も重要であり、市民・事業者等と行政とが一体となり協働で取り組むことが必要です。
- 良好な景観の保全や形成を行う上でルールづくりに加えて、景観イメージを醸成することも重要です。